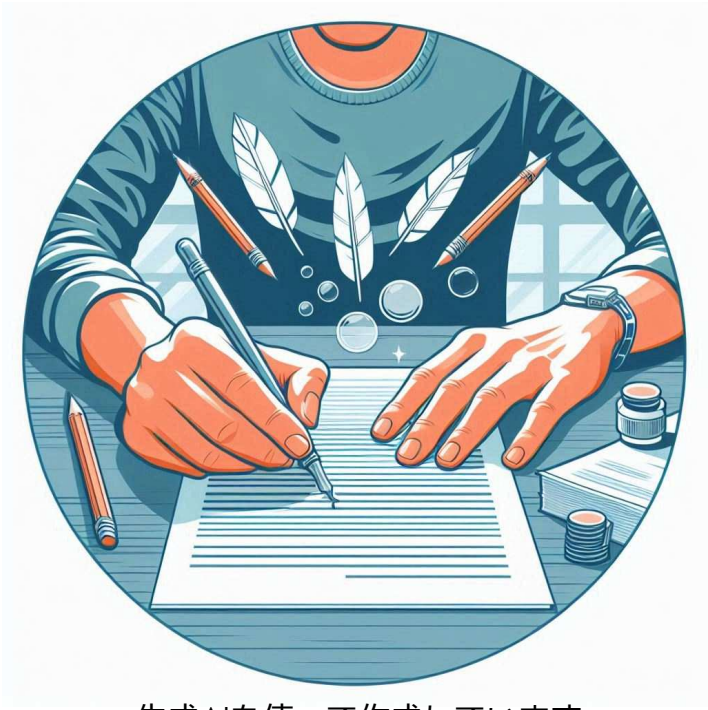
ライティング分科会

産業日本語研究会

2025年度
活動報告



生成AIを使って作成しています

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

活動と目標

活動	作文技法の研究	
対象	ビジネス（実業）文書	
取り組み方	物事の見方、筋書き、語り方の3つの視点で書き方（作文技法）を検討する	
	各視点	物事の見方（概念）に志向性があること 考え方の合(道)理性に物事の見方が関わること 語り方は読み手の行動変容につながること
	特徴	書く行為のさいの思考様式の気付きと理解を促す（文章構成論や段落論でない）
成果目標	ビジネス（実業）文書の書き方読本の製作	

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

本分科会

ライティング分科会委員	
委員	石崎　俊
委員	猪野真理枝
委員（主査）	佐野　洋
委員	高木 淳
委員	中山裕木子
委員	西出　隆二
委員	笠田 和宏
委員（事務局）	荻野　孝野
事務局	三橋　朋晴
事務局	塙　金治
事務局	三吉　秀夫

会議開催	開催日
第1回	7月30日（2025）
第2回	8月22日（〃）
第3回	9月26日（〃）
第4回	11月21日（〃）
第5回	1月30日（2026）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

方針と取り組み

- 思考様式の気付きと理解
  - 母語への気付き（無意識の意識化）と母語表現を外国語として取り扱う能力の涵養を含む

語り方（2018年）	物事の見方（2020年）	考え方（～2025年）
行動変容につながる信念の変え方（書き方）を使い分ける	2つ（不動と不変）の見方と2つの動き（位置変化と質変化）	主張の根拠とその正当化の経緯（2つの関係性の在り方）
説得型と共感型	形姿と内実（モノ） 行為と状態（コト）	関係限定と関係選択

推論による結論とその表現方法

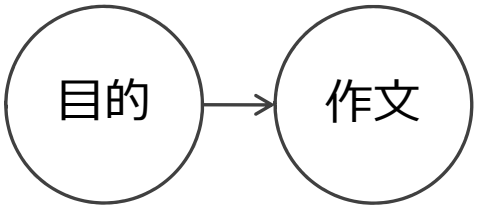
知識の在り方とその体系化

推論に使う関係（因果・縁起）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

作文技法の位置づけ

- 技法の考え方
  - 目的を根拠として作文内容を説明する



作文の技法
主張の正当化のための知識と方法

目的
読み手の信念更新

三要素	物事の見方（本質の概念）
	考え方（理に適う筋道）
	語り方（判断の伝達）

三要素の順序

書き方技法　(1) 物事の見方 ⇒ (2) 考え方 ⇒ (3) 語り方

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

書き方技法に関わる知識と方法

書き方技法　(1) 物事の見方 ⇒ (2) 考え方 ⇒ (3) 語り方

文化や言語に拠って

(1) 物事の見方が異なる	
	本質の概念（実在）
	実在化するモノとコト（記憶するモノやコトの心的表象（内包）には違いがある）

(2) 考え方が違う	
	理に適う筋道（熟慮）
	実在の信じさせ方（推論と判断には合理的な手続きと道理的な手続きがある）

(3) 語り方が変わる	
	判断の表出（伝達）
	納得のさせ方（説得型パラグラフと共感型パラグラフには表現の特徴がある）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

書き方技法と思考の様式

物事の見方	考え方	語り方
本質の概念（実在）	理に適う筋道（熟慮）	判断の表出（伝達）
作られる記憶（標本化と量化）	既知の物事から未知の物事を知る（推論と類推）	やり取りされる情報（方向性）
われわれは言語が引いた線に沿って「現実」を分割し、その結果生じた区分は自然な、すなわち客観的な分節であるとみなす傾向にある(*)。	リチャーズ**の用語法では、「私は虎をみる(I see a tiger)」と「私は虎を蹴る(I kick a tiger)」は統辞論的に同一であるのに対し、思考形式は極端に異なる(*)。	統辞論はわれわれの思考形式を分類するのではなく、ことばを組み立てる諸パターンを分類するということにある(*)。

* 井筒俊彦、小野純一訳、安藤礼二監訳、「言語と呪術」，慶應義塾大学出版会，2018：148頁～149頁を参照

** Ivor Armstrong Richardsは、イギリスの文芸批評家・英語教育学者・修辞学者。1893年 - 1979年

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

書き方技法と思考の様式

物事の見方	考え方	語り方
本質の概念（実在）	理に適う筋道（熟慮）	判断の表出（伝達）

二つの体制化：空間志向（超時間で構造的）と時間志向（従順序で機能的）

分節・分別		理屈・節理		向社会性	
1	不動の形姿傾向	1	対立的な合理性*	1	自己が他者を説得する
2	不変の役割傾向	2	全体的な道理性*	2	自己が他者に共感する

記憶		推論と断定		表現	
1	形姿と移動	1	合理的な因果限定	1	説得型（主語－行為）
2	内実と性質	2	道理的な縁起選択	2	共感型（主題－叙述）

＊ 末松剛博、「日本思想考究」，春秋社，2015：第3章を参照

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

概念-思考と判断-伝達

書き方技法　物事の見方 ⇒ 考え方 ⇒ 語り方

思考の様式　記憶 ⇒ 推論と断定 ⇒ 表出

記憶－推論と断定－表出

記憶（実在）		推論と判断（熟慮）		表出（伝達）
形姿と移動（モノ優位）	→	合理的な因果限定	→	説得型（主語-行為）
内実と性質（コト優位）		道理的な縁起選択		共感型（主題-判断）

集団的な識別を通じて共有された客観と規範的な期待に沿う規範的な自制を通した思考* → <u>文化と言語</u>

* シモーナ・ギンズバーグ，エヴァ・ヤブロンカ，鈴木大地訳「動物意識の誕生（下）」，勁草書房，2021：295頁を参照

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

モノの見方

分離化
数え上げ

水滴が飛散する
（位置変化）

水面から水滴へ
（質変化）

関係化
比べ上げ

生成AIを使って作成しています

世界は物で出来ている
（超時間）

形姿・外形
（構造）

内実・役割
（機能）

世界は関係で出来ている
（従順序）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

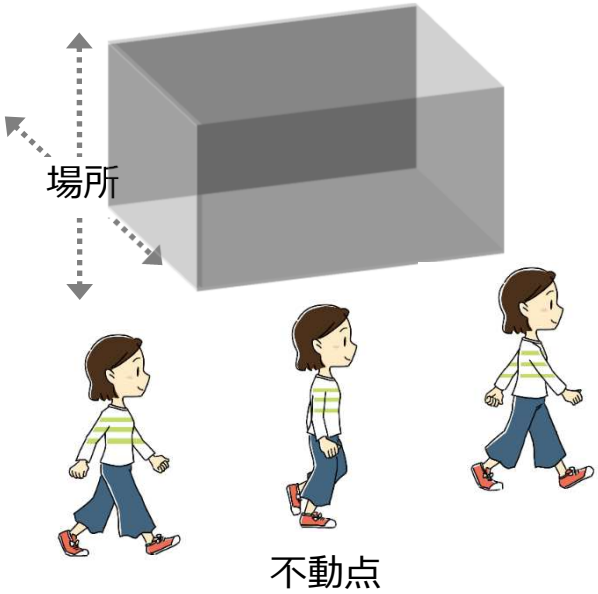
注意と標本化

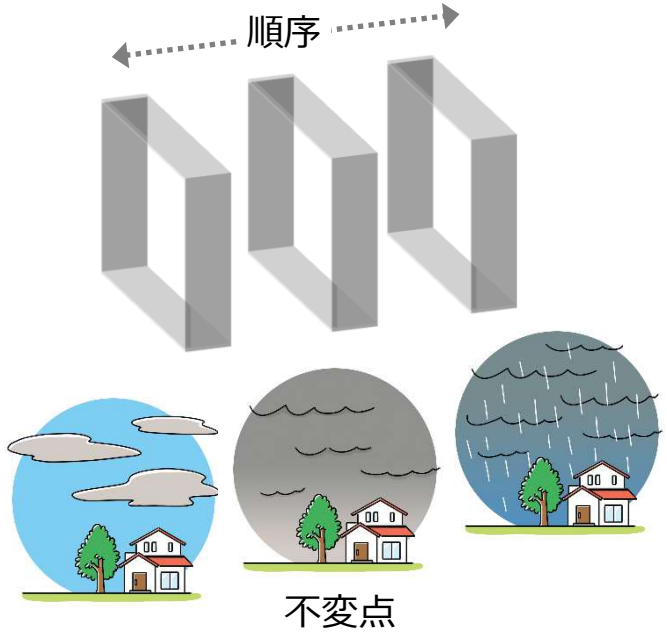
- 注意：空間注意と時間注意
- 標本化：不動点と不変点
  （時間/連接性/ロゴスと空間/共起性/レンマ）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

モノがある/モノである

場所を見渡す（空間注意）⬅ 見当識 ➡ 順序を見渡す（時間注意）





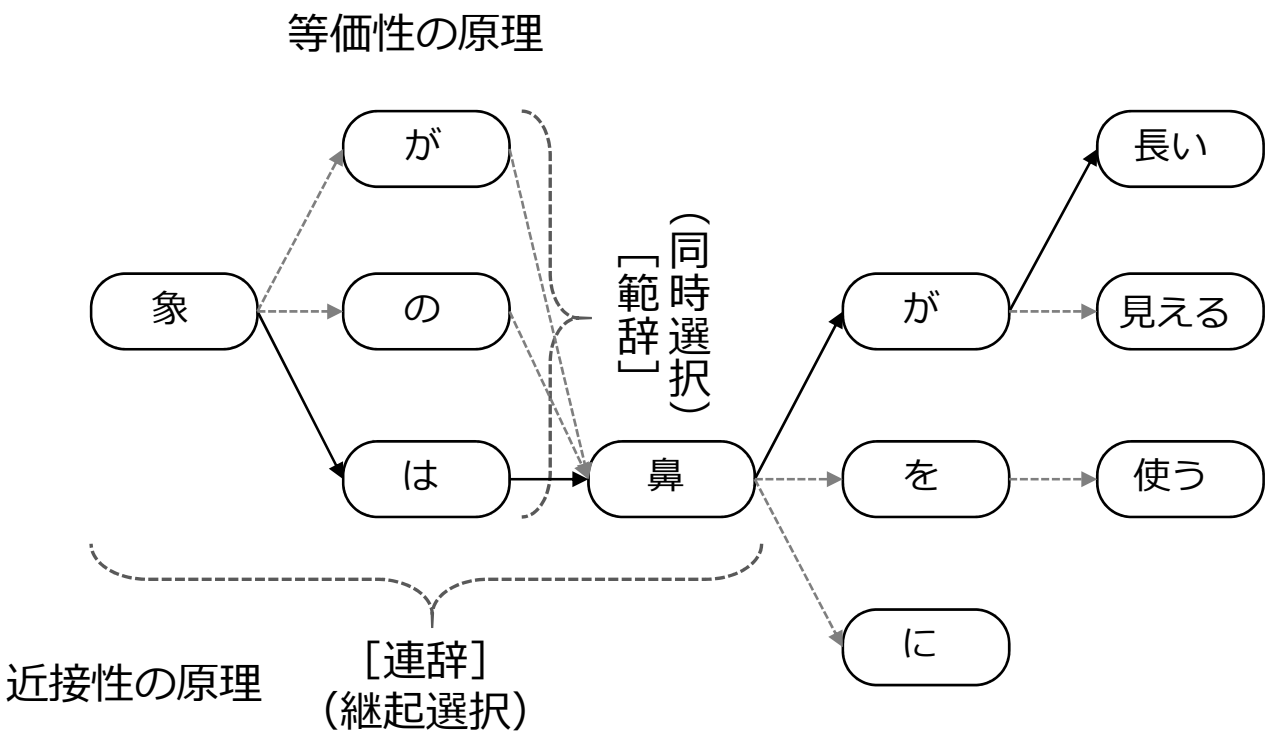
- 空間内分割（モノ群）
- 出来事が時間順序で起こる
（位置変化）
（離散の空間と連続の時間）

- 空間間拡張（関係群）
- 出来事が関係順序で起こる
（状態変化）
（離散の時間と連続の空間）

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

記号の構造（記号論）

範辞，連辞（範列/Paradigm 、統辞/Syntagm）



ウンベルト・エコ著　谷口伊兵衛訳，「記号論入門」，而立書房，1997年から引用

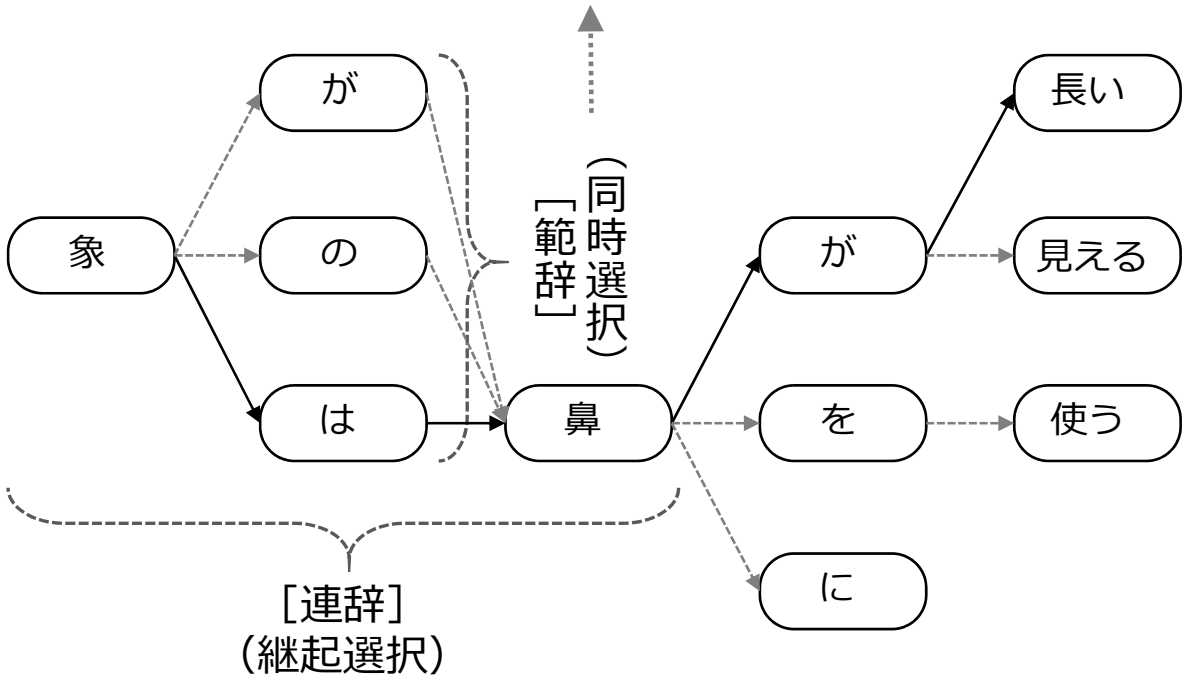
Copyright (C) SANO, Hiroshi

記号構造とレンマ/ロゴス

レンマ：「全体をまるごと掴む」

- 空間間関係
- 離散時間
- 直感
- 把握（認識）
- 偶然（縁）
- 相貌的価値

共起



連接

ロゴス：「目の前に集められた事物を並べる」

- 連続時間
- 空間内分割
- 論理
- 観測（観察）
- 収束（因果）
- 眺望的価値

中沢新一，「レンマ学」，講談社，2014年

Copyright (C) SANO, Hiroshi

統辞における近接性

- 観測（観察）に基づく（ロゴス本来）
  - 時空間の近接（時間間隔、場所的距離）…因果性
    - “The man I saw yesterday.” “The intersection where the accident occurred.”

- 把握（認識）に基づく（レンマ志向）
  - 心理空間の近接…縁起性
    - 「墓を掘った祟り」「サラダがおいしいトマト」

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

範列における等価性

- 観測（観察）に基づく（ロゴス志向）
  - 知覚カテゴリーに拠る類似（相違）
  - 範疇（種・類）に拠る類似（類義性や反義性）

- 把握（認識）に基づく（レンマ本来）
  - 写像（何かを何かで代替する*…記号創発？）
    - （分別/分節を通じた選択を伴う）
  - 類推（喩え）に拠る類似（何かが何かに似ている）
    - メタファー（metaphor、隠喩）
    - メトニミー（metonymy、換喩）
    - アナロジー（analogy、類推）⇒隠喩＋換喩＋写像＋目的（動機）

*シモーナ・ギンズバーグ他，「動物意識の誕生（下）」，勁草書房，2021年：159頁～162頁

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

レンマ性

- 詩的言語
  - レンマ（「全体をまるごと掴む」）的な思考を線状（ロゴス（「目の前に集められた事物を並べる」）的 な表出制約のもとで表す
  - 詩や俳句、小説（語を生み出し、表現に豊かさを与えるのは詩人や俳人、小説家である）
- 慣用表現
  - レンマ（「全体をまるごと掴む」）的な認識（概念）を線状（ロゴス（「目の前に集められた事物を並べる」）的 な表出制約のもとで表す
  - 語彙連鎖から時間経過の意味を無くす
    - « kick the bucket », « cross the line », …

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

ビジネス文書への適用

- 書き方と語り方
  - 考え方（レンマ的、ロゴス的）
    - 「多面的で総合的な」と「直線的で分析的な」考え方があり、前者には共感型、後者には説得型の語り方がある
  - 語り方
    - 「意志は意地でもなく慈愛でもない。相手をよくみて，（説得型の語り方では）智に過分に働かず，（共感型の語り方では）情に過剰に棹さず」語ろう
  - 表出の仕方
    - 主語と動詞（他動詞）（「する言語」）
      - 位置変化を使い，力と（意志）動作によって因果性を表す
    - 主題と用言（述語）（「なる言語」）
      - 質変化を使い，場と（感受）認識によって縁起性を表す

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

表出に用いる特徴

説得型パラグラフ

- 恒常的な力による移動
  - 意志行動（経験）は客観データでない
  - 摩擦圧力を高めない
- 説得には事実が必要
  - だが，脅迫もまた強力な手立てであり警戒する
- 即断性
  - ビジネスに「先んずれば人を制す」という
- 動きは位置変化
  - 「人生は旅である」

共感型パラグラフ

- 最尤の可能性による変化
  - 感受情感（経験）は客観データでない
  - 同調圧力を高めない
- 共感には信頼が必要
  - だが，同情もまた強力な手立てであり警戒する
- 優柔性
  - 俗事に「急いては事を仕損じる」場合もある
- 動きは状態変化
  - 「人生は山あり谷あり」

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

成果予定

- 書き方読本（書き方技法－試作版）
  2025年度・成果報告書（予定）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

付録

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

心理時間の認識と二重性

■指標性のある時間
作業記憶

観察・行為（位置変化）

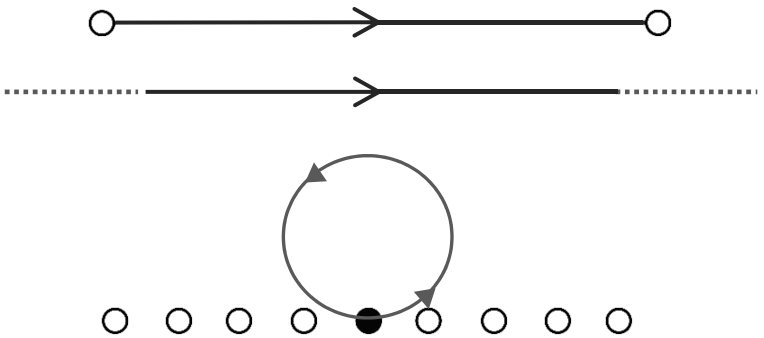
完了、終了　　開始、意図

■知覚経験から予測する
時空把握（知覚基盤）

■象徴性のある時間
エピソード/意味記憶

伝聞、想像、作用

過去　　抽象現在　　未来



直線（有限）

直線（無限、片側無限）

循環（無限）

瞬間（離散）

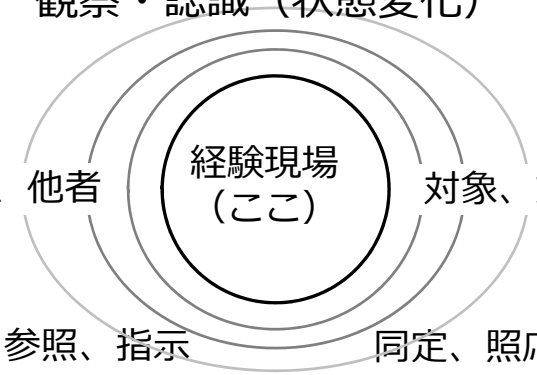
■認識把握から創造する
時空把握（認識基盤）

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

心理空間の認識と二重性

■指標性のある空間
作業記憶

観察・認識（状態変化）

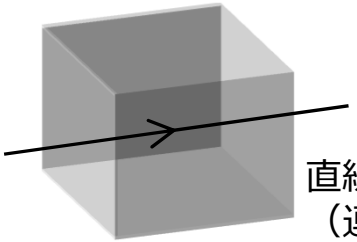


■知覚経験から予測する
時空把握（知覚基盤）

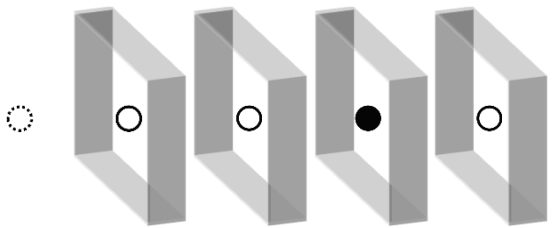
■象徴性のある空間
エピソード/意味記憶

伝聞、想像、作用

単一の空間　　抽象現場　　複数の空間



直線
（連続時間）



瞬間
（離散時間）

独立したモノ群（空間内分割）　　関係したモノ群（空間間拡張）

■認識把握から創造する
時空把握（認識基盤）

Copyright (C) SANO, Hiroshi & JAPIO

語り方と考え方の類型

段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	Ⅰ（米国）型	Ⅱ（欧州）型	Ⅲ（東洋）型	Ⅳ（日本）型
筋書の型	起承-結	起承転結	起承転結	起承転-
意見の形成過程	立証の過程は主張のみを支持する	立証の過程を通じて折り合える点を示す	立証の過程を通じて主張を受容させる	立証の過程を通じて潜在する目的を探る
目的の有無	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示しない
問題解決の型	直接解決型	解決型	解消型	開放型
世界観（可知的全体）	一つ（決定論的）	二つ（全体/部分，準決定論的）	一つ（状況依存，条件付き確率的）	不明（尤度主義）

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

概念（知識）と推論・類推

標本化，量子化	空間分解，不動点		時間分解，不変点	
因果観	数量化（数えられる物が在り，物どうしに関係が認められる）		関係化（認識できる関係が在り，関係の下で物が認められる）	
論理的な根拠	矛盾律（演繹推論）		排中律（帰納推論）	
確からしさ	偶然に依拠する概念/考え方		認識に関する概念/考え方	
段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型
筋書の型	起承結	起承転結	起承転結	起承転
推論・類推	演繹的	仮説演繹的	帰納的（類推）	帰納的（遡及推論）
確からしさ	頻度	論理的可能性	傾向性	主観的信念強度
信念の拠り所	唯物と意志性	唯物	唯識	唯識と感受性

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee

語り方と表出（表現）の特徴

段作文の型	説得型		共感型	
立場の顕在化	主語		主題	
立場の構成	形姿＋意志（行使力）＋視知覚		内実＋感受（受容力）＋情感情	
立証の意味	原因・理由から結果に至る因果連鎖を辿る運動としての思考行為		原因・理由から結果に至る因果連鎖を複数提示する判断としての思考行為	
立証の叙述	目的を持った意志であり，結果に繋がる経路を，位置変化（運動）表現を通じて明らかにする		可能世界を想起する感受であり，結果に繋がる可能性を，質変化（状態）表現を通じて明らかにする	
立証の主表現	量化表現－主語と動詞，接続詞		関係表現－主題と述語，条件節	
納得の手段	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型
筋書の型	起承-結	起承転結	起承転結	起承転-

Copyright (C) JAPIO / Writing Subcommittee